

神奈川県不登校対策検討委員会から小・中学校の先生方へ

# 登校支援のポイントと有効な手立て

「誰もが和らぐ学級を目指して」

～不登校に悩む子どもや保護者への温かな支援～



登校支援が必要な時に役立つ、とっておきの5つのアイテム

- 1 登校支援が必要な子どもをチームで支援する校内体制
- 2 担任を中心とした子ども・保護者への初期対応の心得
- 3 担任を中心とした保護者との具体的な連携
- 4 各学校の効果的な取組みと校長先生や保護者の方からのメッセージ
- 5 小・中学校間や他機関との連携の推進

神奈川県教育委員会

担任・教科担当

安心・楽しい・和らぐ学級を作ろう！

- 子どもの「常態」の把握が大切。
- 声かけは一人の子どもに対して1週間 5 回が目安。

子どもの良いところを認め、小さなことでも褒めるようにしましょう！

- できないことを指摘するのではなく、できていることに目を向けて。
- 適切な「期待」は、子どもの成長の糧。

養護教諭

子どもの健康を守る砦となろう！

- 子どものサインを察知し、状態を把握したら担任と連携を図る。
- 校内の組織による支援を行う。
- 「保健室便り」等による不登校の未然防止について、保護者への協力を求める。

「心の居場所」の提供を！

- 心身両面からの健康相談活動を行う。  
(保護者の相談にも寄り添う姿勢で。)
- 心が落ち着き安心できる時間と空間を提供し、自立・成長を見守る。

スクールカウンセラー等

教職員と積極的に連携しよう！

- 子どものアセスメント (見立て)
- コンサルテーション
- 保護者への支援
- 他機関とのパイプ役



管理職等

学校全体で取り組む支援体制を作ろう！

- リーダーシップを発揮し、支援体制を確立する。
- 保護者等を励まし、学校全体としての取組みを提示する。

教育相談コーディネーター 児童・生徒指導担当

気になる子の数だけチームを立ち上げよう！

- 月3日以上欠席は要注意！ 様々な支援方法について、チームで考える体制づくり
- 教職員同士の和やかな人間関係と担任を孤立させない支援体制の確立
- 子どもたちを支援できる資源を活用
- 他機関との連携についての助言

年間を見通した登校支援のポイント

	4月	5月	6月	7月
チーム支援	前担任との情報交換	校内研修会	連休明けの登校支援	学級の児童・生徒全員との教育相談
	配慮すべき子どもの把握 新たな人間関係づくり	3日連続の欠席にアクション！ 早期対応で長期化防止！	豊かな人間関係づくりを 目指した授業の展開 I	小・中連携 I 授業参観・情報交換

## 3日連続の欠席への対応は登校支援の第1歩

初期対応の合い言葉 → 「1日目電話! 2日目手紙! 3日目家庭訪問!」

こんな様子が見られたら…。(チェックリスト)

## [健康面]

- 体調不良での遅刻、早退が多くなってきた。
- 理由は問わず、月3日以上欠席があった。
- それほどの体調不良でもないのに、保健室に行く事が多くなった。
- 給食(昼食)の量が以前より著しく減少または増加した。

## [学習面]

- 学習意欲が低下している。
- 特定教科のある日に欠席・欠課が繰り返される。

## [人間関係]

- 友だちと離れ、一人でいることが多くなってきた。
- 登校しても教室以外で過ごすことが多くなってきた。
- 友だちにからかわれたり、仲間はずれにされたりしている様子が見られる。

すぐに本人・保護者に様子を聞いてみよう!

「〇〇な様子が見られたのですが、家庭ではどうですか?」  
… 用件は簡潔に。

## Point 1

## 電話連絡

- ・家庭の事情を考慮し、望ましい時間帯に連絡する。(教員にとって常識的な時間が良いとは限らない)
- ・保護者の顔をイメージしながら、保護者の訴えをよく聞く。
- ・保護者を不安にさせないように、学校でできることをいくつか伝える。(例えば、朝、迎えに行きましようか?等)
- ・保護者や子どもの負担にならない範囲で連絡する。
- ・子どもが電話に出られない時は、保護者をとおして、担任からのメッセージを伝える。



## 「教師に望まれる、不登校の子どもへの理解の姿勢」

## 不登校は「学校と子どもが合わない時」に起きてくる

- 不登校は「甘え」や「怠け」ではない。「弱い」からでもない。
- 「本当は楽しく学校に行きたい。でも、行けないから困っている」という気持ちを支えましょう。
- 「不登校の〇〇さん」ではない。「〇〇さん本人」と会い、辛さを理解しよう。

## Point 2

## 担任として、心がけたいこと

- ・自分の心身の負担感を保護者に言わない。
- ・自分一人で解決しようとせず、周囲の援助を拒まない。
- ・一つの方法論や偏った考え方に固執しない。
- ・自分の能力や資質を否定しない。

8月

9月

10月

11月

校内研修会 夏休み明けの登校支援

学級全員との教育相談期間の設定

配慮すべき子どもには  
夏休み中も緩やかな  
登校リズムを・・・

3日続きの欠席には働きかけを



小・中連携を踏まえた学校行事、学年行事、合同授業などによる子どもたちや先生との交流

学習支援を忘れずに!

小・中連携 2  
小6 についての情報交換

夏休み明けの健康チェック、基本的な生活習慣チェック (養護教諭を中心に)

## 保護者の目線で、保護者と共に考える登校支援

保護者との連携の合い言葉 → 「迅速!丁寧!親切!誠意!」

### 保護者により良いパートナーシップをつくろう!

日ごろから、学級・学校の指導姿勢や子どもの様子等を家庭に伝えましょう。

- 保護者の養育態度を責めない。子どもの性格や行動についての批判をしない。
- 保護者が将来の不安を考えすぎないように、一呼吸おいた対応を。
- 保護者と「原因」の詮索をしない。
- 保護者との連絡は密にし、いつも「ねぎらい」の姿勢で対応する。
- 家庭での変化について観察してもらい、連絡を依頼する。
- 校外の専門機関を紹介する時は、学校での教育指導に役立たいとの意思を明確に伝える。

### 電話だけで済ませず、家庭訪問・来校相談を!

- 教育相談の時間・場所は保護者の希望等を優先し、一方的に押しつけない。
- 家庭での状況・最近の様子などを詳しく聞く。
- 教師の主観・主張は言わず、一緒に解決したいと考えている事を伝える。
- 保護者の訴えは素直に受け止め、不安にさせる言葉は使わない。  
(不登校、非行、進学、成績…)
- 配付プリント類は必ず渡す。
- 1回の家庭訪問時間は30分程度。来校相談は1時間程度が理想的。



### Point 3

#### 家庭訪問

・事務的な話にならないように、心にゆとりを持ち、子どもに会える時は、

- ① 「いつも君のことを思っているよ!」とニコリ笑顔で接するだけで子どもは安心する。
- ② 学校の話はせず、まずは、趣味の話や世間話をする。
- ③ 一緒にゲームをしたり、勉強を教えたりしながら、同じ時間をゆったりと過ごす。

子どもに会えない時は、

- ① 保護者をとおして、励ましやアドバイスを伝えてもらう。
- ② 担任からの手紙を渡してもらう。
- ③ 「いつでも会いたい!」という気持ちを伝える。

### Point 4

#### 来校相談

- ・「忙しいのに来ていただいて…」などの、ねぎらいの言葉を忘れずに。
- ・保護者の緊張をほぐすように、いきなり本題に入らず、世間話から始める。
- ・一気に解決しようとせず、具体的に今できることは何かを探っていく。
- ・家庭にやってほしい事より先に、子どもの良い面を伝える。

12月

1月

2月

3月

#### 冬休み明けの登校支援

豊かな人間関係づくりを目指した授業の展開Ⅱ

学習支援を忘れずに!

新入学前の一日学校見学・説明会

中学校からの出前授業の実施



#### 校内研修会

良かった事例などに基づくカンファレンス(会議)を行い、情報を共有する。

入学予定の児童・保護者への相談

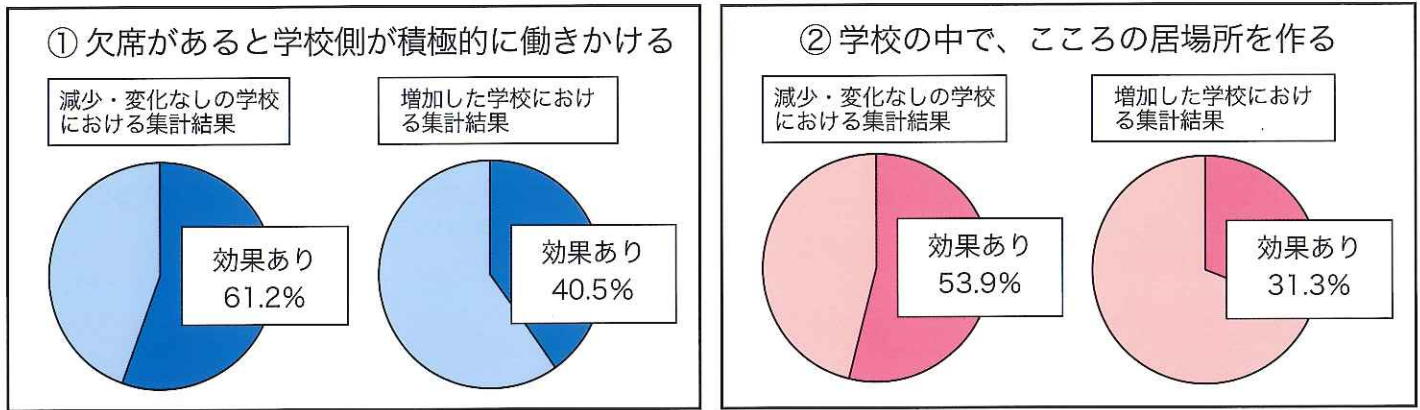
小・中連携3  
引き継ぎ

配慮事項の引き継ぎ・  
受入準備・クラス編成の情報交換

### 不登校対策の効果的な取組みについての分析結果 (小・中学校長会アンケート結果から抜粋)

平成 18 年度、本県での不登校児童・生徒数は前年度に比べ大幅に増加しました。「増加した学校」と「減少、変化なしの学校」とではその取組みに違いはあったでしょうか。

下の①～⑨は、校長先生が、欠席日数が 30 日以上 90 日未満の不登校児童・生徒への対応として「効果のあった取組み」とした割合を、平成 18 年度の不登校児童・生徒数が「増加した学校」、「減少・変化なしの学校」で分け、比較したものです。



その他の効果的な取組み項目	減少・変化なしの学校	増加した学校
	効果ありと回答した割合	
③担任を含めた複数の人間でチームを作り、かかわる	46.4%	33.9%
④登校時には、多くの教職員が温かく優しい言葉をかける	46.4%	31.6%
⑤本人を巡る仲間関係に配慮をする	46.1%	36.5%
⑥学校で活躍できる場面を作る	35.4%	16.8%
⑦本人の興味のあること、得意なことを探し、その面で付き合う	34.5%	20.4%
⑧個別支援シートやコーディネーターを活用して、支援計画を共有して関わる	24.6%	15.1%
⑨本人が不快に感じている感情を言葉で表現できるように促す	14.4%	6.9%

\* 上記①～⑨の項目は、埼玉県熊谷市で、不登校対策に成果をあげた先生のほとんどが、「不登校の子どもへの支援で必ず行う」とした取組みです。

### その他の効果的な取組み

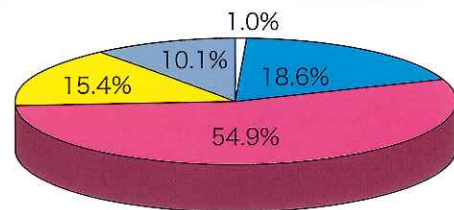
- 民生・児童委員、児童相談所、福祉事務所などとの連携を進めている。
- 別室個別指導を積極的に実施し、少しでも登校できる環境を整えている。
- 時には管理職も同行した家庭訪問も有効である。

### 小・中学校の校長先生からのメッセージ

- 何とんでもまずは教師側が絶対にあきらめないことです。いつも子どものことを見ている、考えているというメッセージを発することがとても大切なことだと思っています。
- 誰かに押しつける責任論ではなく、「できることは何か」という姿勢を持ち続けることが大切です。
- 学校に来たくとも来られない子どもの気持ちや思い、また、その保護者の切実な願い、悩みを理解できる先生であって欲しいと思います。
- 昨年 9 月の「3 日間連続欠席したときの家庭訪問」などの取組みは成果があり、先生方の啓発にもつながりました。

### 不登校に関する PTA アンケートから

Q もし、自分のお子さんが学校に登校することを渋るようになったとき、あなたはどのようにしますか。



- 積極的に登校するように促す
- 様子を見て登校するように促す
- 無理に登校することはないと考え、子どもの変化に任せる
- その他
- 無回答

○ 7 割以上の保護者は、何らかの形で登校を促すと回答し、15%は無理をすることはないと考えています。

登校への促しについては、学校と家庭がよく話し合い、家庭の理解を得たうえで行いましょう。

## 小・中学校の連携

- 「会議」から「よりきめ細かい情報連携」そして「顔の見える交流」へと発展するよう努める。
- 教員の交流だけでなく、行事等を通じて子ども達の交流も積極的に行う。
- 「小学校は」、「中学校は」という意識を捨て、共に「子どもたちの社会的自立のために」という認識に立った連携を進める。

## 教育支援センター、フリースクール等関係機関(相談機関等)との連携

- 支援に不安があるような場合は関係機関へ相談する。
- 関係機関に関わりはじめても任せきりにせず、連絡を取り合うようにする。
- 子どもの状態や特徴についての情報だけでなく、対応方法についての助言を求めるようにする。
- 学校は、情報の積極的な提供と、学習面での支援を行う。

\*関係機関とは、相互理解の機会を持ち、その役割等についてよく知ることが大切です。

\*また、普段から学校と関係機関の間で連絡が取りやすい体制づくりにも努めましょう。

## 不登校について先生方が相談できる関係機関

- 県立総合教育センター<教育相談センター>(総合的な教育相談) (0466) 81-0185
- 県立総合療育相談センター (いじめ、体罰、子どもの人権等の相談) (0466) 84-1616
- 県中央児童相談所 (児童虐待・ネグレクト等の相談) (0466) 84-7000
- かながわ子ども・若者総合相談センター (不登校、ひきこもり、非行等の相談) (045) 242-8201
- 神奈川県西部青少年サポート相談室 (不登校、ひきこもり、非行等の相談) (0465) 35-9527
- 県精神保健福祉センター (心の健康問題、ひきこもり等の相談) (045) 821-6060

\*各市町村の教育相談関係機関につきましては、各市町村の相談窓口にお問い合わせください。

## 不登校の子どもを対象とした自然体験活動への参加申し込み

- 足柄ふれあいの村 (0465) 72-2040

## 不登校関連のホームページ紹介

- 神奈川県教育委員会 不登校対策関係資料

不登校対策について：神奈川県

検索

- 神奈川県立総合教育センター 研究成果物等刊行物  
「ティーチャーズ・ガイドⅡチームで取り組む日々の実践と不登校への対応」

神奈川県立総合教育センター：研究成果物

検索

神奈川県教育委員会は、平成19年10月25日に、学識経験者、フリースクール関係者、PTA関係者、学校関係者による「神奈川県不登校対策検討委員会」を設置し、不登校の未然防止や不登校児童・生徒の学校生活の再開に向けて、小・中学校の先生方にご活用いただくためにこのリーフレットを作成・配付しました。

平成20年6月 発行  
平成26年2月 改訂

<お問い合わせ先> 神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課

〒231-8509 横浜市中区日本大通33

Tel (045) 210-8292 (直通) Fax (045) 210-8937